

詩集

神様と雲と小鳥たち

原田直友

絵・鈴石弘之



詩集・神さまと雲と小鳥たち ©1977

昭和52年9月28日 初版発行

著者 原田直友

企画・制作 かど創房

編集協力 まど・みちお

発行者 門馬正毅

印刷所 株式会社トープロ

本文文字モトヤタイプレス

製本所 佐久間製本株式会社

発行所 かど創房

埼玉県越谷市大成町8-2520-44 〒343

☎0489(82)8800 振替 東京6-32461

発売元 株式会社竹村出版

東京都千代田区神田神保町1-55 〒102

☎03(293)0051〜2 振替 東京18156

N D C 911 N P C

詩集・神さまと雲と小鳥たち

原田直友

かど創房 1977

87P23cm (創作文学シリーズ詩歌)

〈検印省略〉 乱丁・落丁本はおとりかえします。
定価はカバー又はオビに表示してあります。

詩集

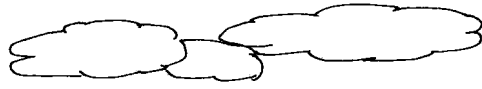
神々と雲と小鳥たち

原田直友

絵・鈴石弘之



かど創房



もくじ

神^{かみ}さま

ひるね — 8

雲^{くも}と鳥^{とり} — 10

空^{そら}の広^{ひろ}さ — 12

チヨウのたんじよう — 14

よびりん — 16

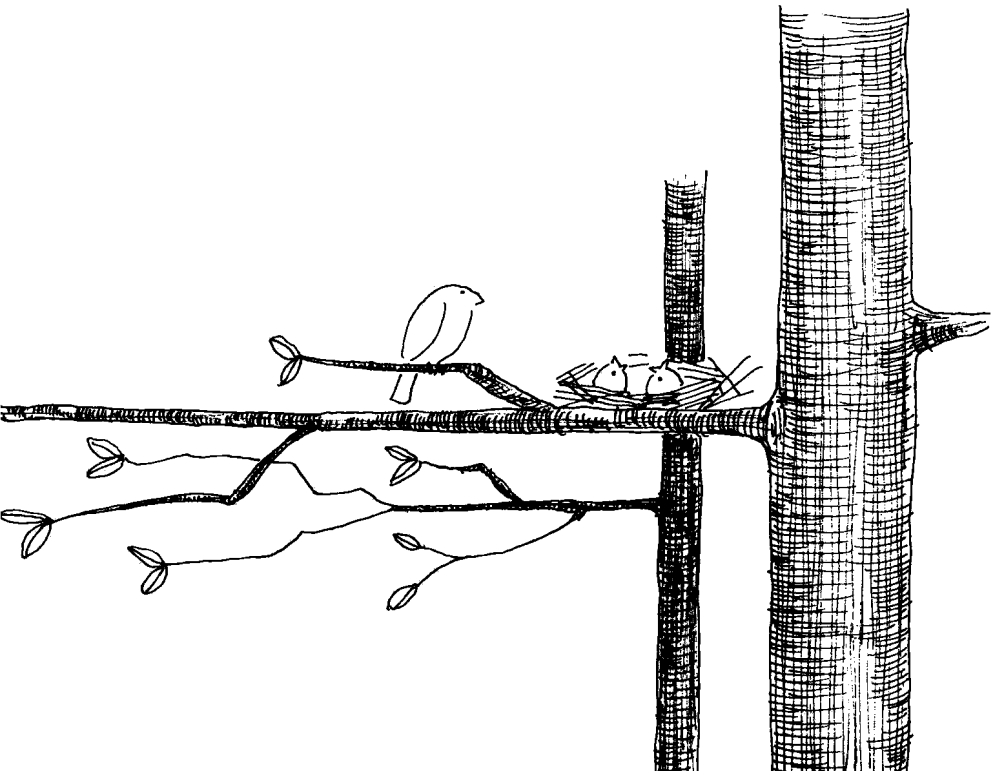
神^{かみ}さまのお散^{さん}歩^ぽ — 18

おいのり — 20

蛾^がのよう^{よう}に — 22

ぎろん — 24

やれやれ — 26



秋あきの空そら

50

林はやしの小道こみちは

48

林はやしの小道こみち

ゆめ

44

ひばりのちえ

42

いのち

40

切符きっぷ

38

空そらのどこに

36

夕日ゆうひ

34

虹にじ

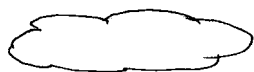
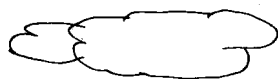
32

ほたる

30

虹にじ





ひなた — 52

ないしよ話^{ばなし} — 54

昼^{ひる}の月^{つき} — 56

ひっそりと — 58

ただいま十一^{じゅういっぽん}本 —

だっこ — 62

そろそろ帰^{かえ}らないと — 64

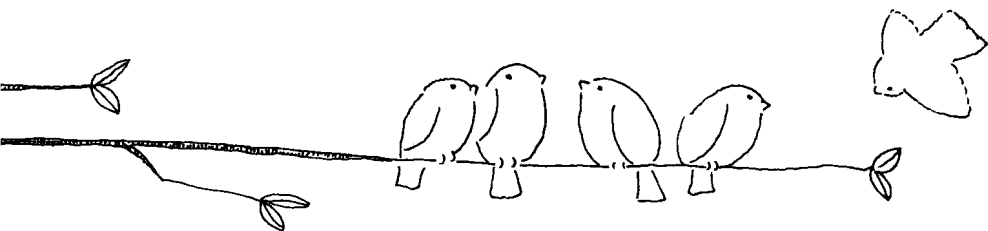
虫^{むし}のように — 65

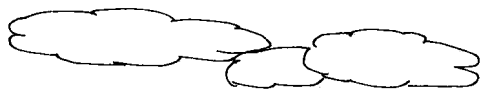
山^{やま}いも — 66

きょうね — 68

そいね — 69

ただいま十一^{じゅういっぽん}本 — 70





いがぐり頭あたま — 72

海うみ

落ち葉おは

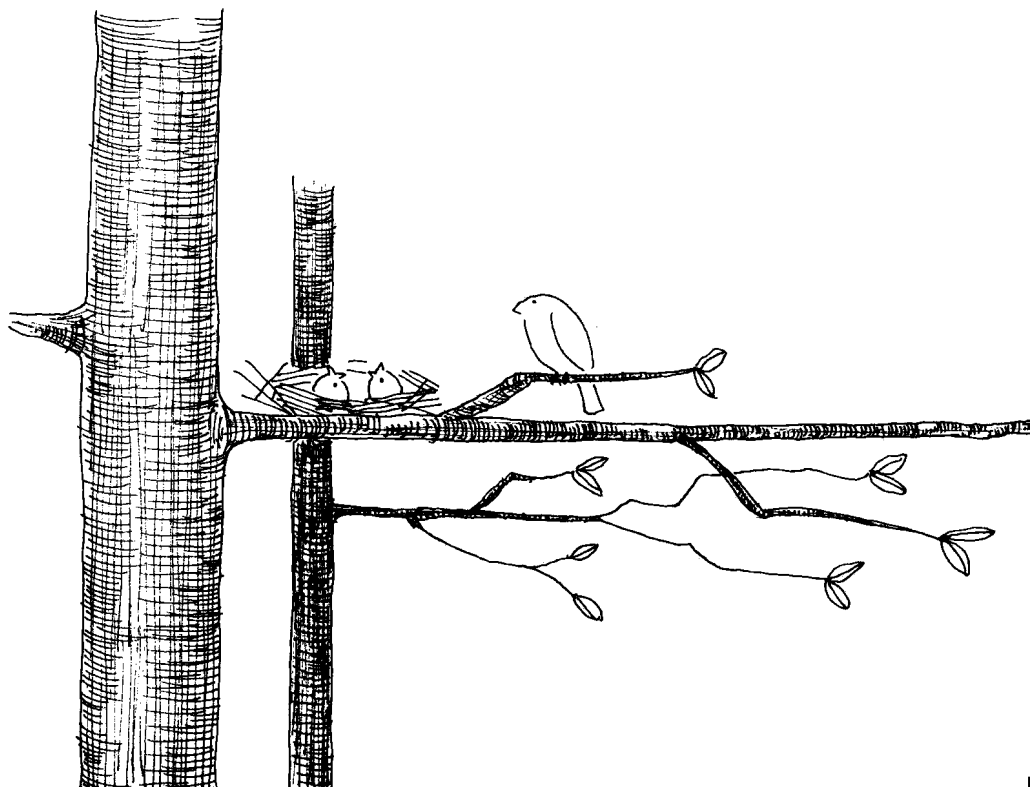
76

海うみ

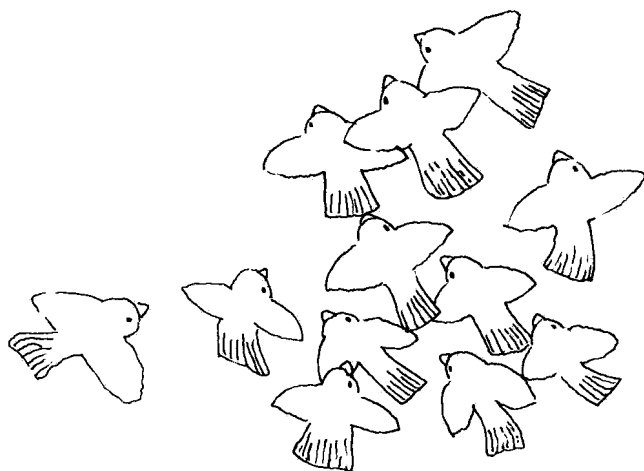
80

あとがき —

86



神
さ
ま



ひるね

わた雲ぐもが

ふわりふわり流ながれていきます

「あれっ なんだろう」

二羽にわの小鳥こどりがのぞきにいき

そっと飛とんでいきました

となりの雲ぐももよってきて

そっとはなれていきました

雲にはだれがいるのでしょうか

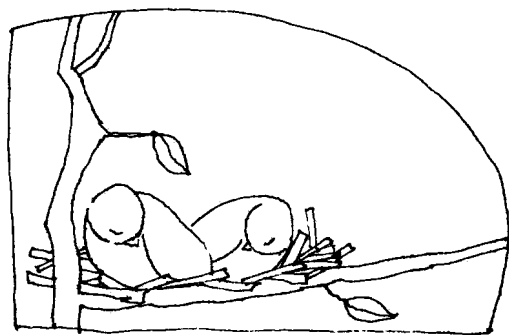
そうです

神さまがおいでです

うでをまくらに　ぐっすりと

いま　ひるねの

まっさいちゅうでございます



雲と鳥

まず天^{てん}と地^ちをおつくりなされた

神^{かみ}さまは

なんだか開^{ひら}きすぎたようだと 空^{くう}間^{かん}を

しばらく ながめておられたが

そうじゃそうじゃと手^てを打^うって

てのひらに息をふきかけて雲をつくると

ちぎっては ぽいぽい投げられた

てのひらを閉じたり開いたりして

鳥を何羽も飛ばされた

空の広さ

神さま

空はどのくらい広いのですか

空ですか

神さまはそういって
こ手をかざし
しばらくまぶしそうに

空のむこうを

ながめておられたが



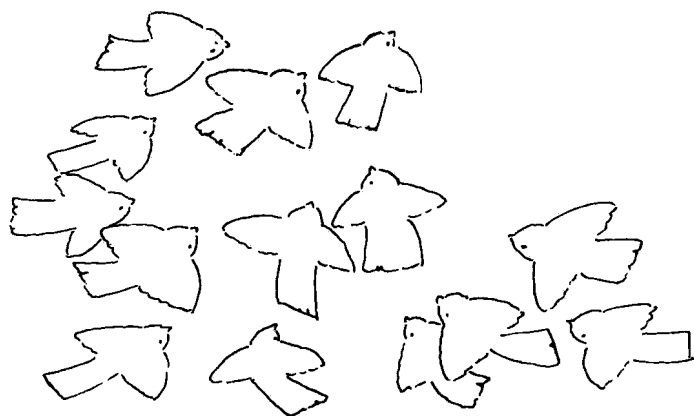
それなんですがねえ

わたしが作^{つく}ったんですけど

わたしにも

さっぱり わからんです

と
あたま
頭をかかれた



チヨウのたんじょう

部屋^{へや}にとじこもって 神^{かみ}さまは

なにやら一心^{いっしん}にかいておられたが――

「うーん これは われながらよくできたわい」

そう一人^{ひとり}ごとをいって

それを切りぬかれると

えんさきに出^でて

ぱいと 空中^{くうちゅう}高く投げ上^あげられた

二つの紙はひらひらとまい上がり

しばらく風に遊んでいたが

やがてもつれあいながら

まぶしい菜の花畑の方へ飛んでいった

